



2014年8月22日

横浜市長 林 文子 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達 文宏
同 神奈川地域会 代表 飯田 善彦



旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫の保存活用に向けての緊急要望書

拝啓 時下ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。
横浜市におかれましては日頃より文化の継承に尽力されていることに、敬意を表します。また、弊会の活動にも格別のご理解を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、新聞報道等によりますと、株式会社ケン・コーポレーションが昨年取得した中区のKN日本大通りビル（旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫）には新たな活用の計画があり、これに伴い、その倉庫棟が8月中に取り壊される予定、とのこととです。

弊会では以下のように、旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫は、横浜の近代化遺産の中にあつて最も重要な建物の一つであると認識しております。

まず建物自体について言えば、事務所棟は日本最初の鉄筋コンクリート造のオフィスビル(1911年(明治44年)竣工)であり、またその前年に竣工した倉庫棟部分は、煉瓦造、屋根および柱は鉄筋コンクリート造、床は木造という混構造で、これらは日本における鉄筋コンクリート造の成立過程を示す貴重な建築群として位置づけられます。

日本建築学会からも、これらにつき、オリジナル部分の十分残されている貴重な明治末期の建物として重要文化財に相当する、との評価が出されております。

設計者の遠藤於菟は横浜ゆかりの建築家で、生涯60棟を超える建物を設計しましたが、横浜での遠藤の作品は、解体計画が昨年発表された旧帝蚕倉庫を含めても、この旧三井物産横浜ビルおよび同倉庫、旧帝蚕倉庫事務所の計4棟を残すのみとなってしまいました。関東大震災以前に竣工しながら大きな被害も受けず、倉庫については収蔵の生糸も無事に残ったことが記録されており、これは建築家 遠藤於菟の類いまれな才能を示すものと言えます。

本倉庫はまた社会史的に見ても、ことし世界遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」にとっての最終出港地 横浜での最古の輸出拠点にあたります(煉瓦倉庫より1年前に竣工)。横浜の現在の発展の基礎を築いた重要な文化遺産であり、富岡製糸場と同根の歴史背景を持つ、第一級の近代化遺産と言えます。

都市景観として見ましても、日本大通りは慶応の大火の復興による二十間道路として整備され、そこに関東大震災前からのこの建物や、震災復興建築の旧商工奨励館、県庁本庁舎等が軒を並べており、横浜開港からの歴史的景観を今に伝える最重要地区の一つと言えます。平成23年には国の景観大賞に選ばれるなど、地域の核そして横浜らしさの原点ともなっております。

以上、旧三井物産横浜ビルおよび旧倉庫の極めて大きな歴史的・景観的な価値に鑑み、その倉庫棟については、所有者が解体を今すぐに保留し、その保存活用に向けて横浜市や建築関係団体等との協議を経るよう、貴市の指導をここに至急、お願いする次第です。

なお、公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会並びに同神奈川地域会は、そのために出来る限りの協力をさせて戴きたく存じます。

敬具